

SNK第9期 2008年活動の記録

「私たちはSNK12年の歴史をSNKホームページにUPする」企画に取り組んでいます。ここに編纂するSNKの歴史は、シニアネットの萌芽時代、組織されて以降、今日までの歴史を取り上げていきます。皆さんの声を編集局にお寄せください。第9期(2008)はシニアネット結成10周年、節目の年です。10年を回顧しネット社会の明日を願う時代です。参考：広報Vol.20 2008.10.22発行：特集 SNK10年史
トピック (資料等の記録は会員諸氏のHP、記録写真他を活用しています)

2008年6月14日 荒木農園ジャガイモ収穫祭
 (2008年2月に開園したばかり、初めての収穫祭)



2008年度

- 4.01 広報SNK第17号発行
- 4.04 10周年記念行事実行委員会
- 4.27 チッゴアミーゴス、キッズフェスタに出演
- 5.26 第8回SNK総会 新人歓迎会員交流会 参加85名
- 6.02 にこにこステップ運動(前期)開始
- 6.14 荒木農園 ジャガイモ収穫祭
- 7.17 新人会員第1回オリエンテーション
- 7.21 うまかもんば喰う会 in 基山 そうめん流し
- 8.04 くるめ水の祭典・総おどりに参加
- 8.15 筑後川のお盆の灯籠流しに応援参加
- 9.03 にこにこステップ運動講演会
- 10.19 筑後川芋煮会
- 10.20 にこにこステップ運動 後期スタート
- 10.26 10周年記念フェスタ・九州シニアネットサミット開催
- 11.02 チッゴアミーゴス、うきは収穫祭に出演
- 11.07 荒木農園・収穫祭
- 11.28 英語で歌う会、チッゴアミーゴス、無量寺コンサート出演
- 11.30 青年会議所主催の「くるめがゲー」に参加

2009

- 1.24 温泉同好会(原鶴温泉)
- 2.22 にこにこステップ運動・講演会
- 3.15 ふるさと探検・つばきウォーク
- 3.14 シネマ倶楽部第100回鑑賞会

2012夏のお知らせ

7月14日 ゆにばひろば

会場：久留米大学、御井キャンパス
 時間：13時 (MLで確認下さい)
 大学と地域を結ぶ多世代間交流を目指しています。

8月4日 水の祭典

集合場所：東町公園、
 時間：16時 (MLで確認下さい)
 総踊り：市内の目抜き通りをパレードする夏祭り
 水の祭典久留米まつりにSNKは参加しています。
 明治通りでのマーチングやストリートパフォーマンス、1万人の「そろばん総踊り」など、街中が活気づき賑わう、翌5日には「筑後川花火大会」

8月15日 流し灯籠

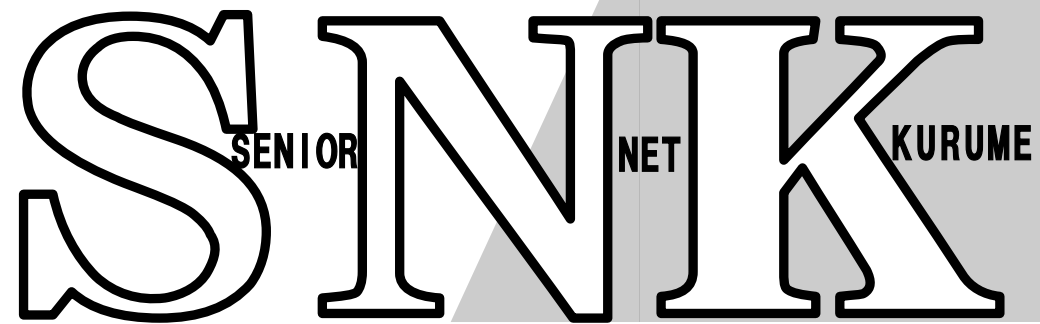
会場は瀬下町の水天宮横、筑後川河川敷。
 準備等もあり役割、時刻等は(MLで確認下さい)
 SNKでは沢山の有志がボランティアとして参加。
 15日は早朝から、灯籠本番は16時頃から
 流し灯籠は戦後途絶えていたが1997年に復活、京町の「流し灯籠保存会」の皆さんや、久留米観光コンベンション協会の協力で盛大な行事。

(あとがき) 筑後平野の初夏は耕作放棄地が増えたとはいえ、昔ながらの小麦色の景色が遠くまで広がり、徐々に水を蓄えたたんぼへと変わっていく。筑後川の流れ、永遠なれ。(武)



実務家としてSNKをまとめた今津理事長(写真中央)が退任、御苦労さまでした

通常総会は重要案件を報告して、小島理事長の新体制へ



編集・発行
 NPOシニアネット久留米
 理事長 小島 紀夫
 久留米市荘島町13-1
 TEL 0942-46-2277

新理事長挨拶

小島 紀夫



5月20日に総会が無事終わり、当日の新入会員歓迎会と会員交流会も大変楽しく盛会裏に終了することが出来ました。改めまして関係各位に厚くお礼申し上げます。この度今津前理事長の後任を拜命致しました。微力でございますが精一杯努めさせていただきます。

1997年(平成9年)4月久留米市にシニアネット久留米研究会が発足(当時25名)して15年、2000年(平成12年)にNPO法人に登録して11年を経過し初代島井理事長から今津前理事長まで関わられた皆様の熱意と努力で今では筑後地区にとって無くてはならない組織となりました。

インターネットを通して「シニアの生き甲斐づくり仲間づくり」を目指して、「学ぶ、遊ぶ、作る、奉仕する」を基本理念に活動を推進して来られ、現在もこの精神は筑後川のようにおおらかにゆったりと流れています。

パソコン教室、講座、久留米ん町探検隊、うまかもん、各サークル活動や今年3月に行政、企業、SNKとの協働事業が評価され県知事賞を受賞した「にこにこステップ運動」、灯籠流し、教育支援や老人ホームへの慰問(さざえさん一家やチッゴアミーゴス)、癒しの森公園づくり等シニアが楽しみながら持てる経験や知識を地域に活かし貢献していく活動をこれからも継続し、推進していきましょう。今後も今まで同様ご指導とご協力をお願い致します。



5月20日、Hニュープラザを会場にオフ会は開かれ参加者総数78名、幹事の岡崎幸雄さんほか、担当のみなさまのお世話で盛会な1日。金子事務局長の乾杯、小島新理事長挨拶、新入会員紹介など、アトラクションはちっごアミーゴスなどSNKのサークルが活躍、賑やかに終宴

デジタル化した社会でネットワークを楽しむシニアたちは、ネットを通じ生きた情報を交換し合っています。そして日本の社会のあり方や世界の動きを考えます。情報は国境を越えて氾濫する今日、人的交流は島国日本の大きな命題でもあり、コミュニケーション能力が問われます。日本人の誇りを持って生きる若者たちへ、SNK:MLでは君たちの人間成長を願っています。

特集 シニアは子どもたちを見守っている・・・(1) 未来のおとなたちへ

漢詩句行

今日の言葉

☆須佐卓郎音楽塾

日露戦争の司令官及び高級将校は維新を体験し、古くからの規範である武道を身につけていました。だが太平洋戦争を経験した昭和前期、悪い面が表にでて悲惨な結果になりました。この戦争を敗戦で終え大切な精神まで打ち消されたかに見える惨状。物質は恵まれたが精神的には荒廃した日本になりました。現在の政治ばかり、教育の現場ばかりです。戦前・戦後の両教育を受けた私は今の若者たちに健全な精神を求めるものです。(会員 須佐卓郎)

送三蔵帰西域 李洞(唐代…年代調査中)

三蔵(さんぞう)の西域に帰るを送る 李洞(りどう)
十萬里程多少難 十萬里程 多少の難
沙中弾舌授降龍 沙中に舌を弾じて 降竜(こうりゅう)に授く
五天到日應頭白 五天 到る日 応(まさ)に頭白(とうはく)なるべし
月落長安半夜鐘 月は落つ長安 半夜の鐘

三蔵=仏教の学問を「経・律・論」に三分し、これを三蔵という。
三蔵すべてに通ずるの意味で僧侶の尊号とする
(十万里の道のりには数えきれない困難が横たわっている。
沙漠の中で空から降りてきた竜にお経をきかせていることだろう。
五天竺にたどりつく日には きっと頭が真っ白になっているだろう。
長安に月が落ち夜半の鐘がなって名残を惜しんでいる。)
:子供の頃読んだ「西遊記」が思い出されます。

太田道灌借蓑図 大槻 磐溪 1801~1878

太田道灌(おおたどうかん) 蓑を借りるの図に題す
孤鞍衝雨叩茅茨 孤鞍(こあん) 雨を衝(つ) いて 茅茨(ぼうじ) を叩く
少女為贈花一枝 少女 為に贈る 花一枝(いっし)
少女不言花不語 少女 言わず 花語らず
英雄心緒乱如糸 英雄の心緒(しんしょ) 乱れて糸の如し

七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき (後拾遺和歌集)
太田道灌=戦国の武将 1432~86、孤鞍=馬の鞍、茅茨=かきぶきの家
(道灌が雨具を借りようとする貧しい家に寄って頼んだ。少女が出て来て黙って山吹の花を差し出した。少女は実のと蓑をかけて断ったのだったが、道灌は意味が分からず、家に帰って家来に尋ねたところ兼明親王の歌を覚えてくれた。そこで道灌は自分の和歌に対して無知を慚じその後歌道に精進した。)



「英語で歌う会」が「スイング」を歌えば騒然とした会場も静まり返る、SNK(春オフ会)

偶成(ぐうせい) 朱熹(1130-1200)
少年易老學難成 少年老い易(やす)く学成り難し
一寸光陰不可輕 一寸の光陰軽んずべからず
未覺池塘春草夢 未だ覺めず池塘春草(ちとうしゅんそう)の夢
階前梧葉已秋声 階前(かいぜん)の梧葉(ごよう)已(すで)に秋声

偶成=偶然にできた 光陰=時間のこと 池塘=池のつつみ
階前=女闘先の音 梧葉=桐の葉 梧は青桐

教育について、ひと言だけ申しますと

アテネ五輪会場でボランティア中に見た日本人の国旗マナーのことです。表彰式で観客全員が国旗に向かって起立脱帽し、国歌が終わるまでしゃべらないのが国際ルールなのに、席に腰掛けたままおしゃべりしているのが、ヒザに日の丸を広げた日本人の若者たちでした。式の後で、このグループに注意しましたが、みんなキョトンとしていましたので上記のマナーを説明しなければなりませんでした。親も教師も教えず(あるいは自分も知らず)、自覚もなく、まるでガラパゴスからやって来た非文明人に見えました。今の教育では子どもたちがかわいそうです。外国人観客の言葉が耳に突き刺さりました。「あれは服を着たサルね」ロンドンオリンピックでは嗤われませんように! 応援団(理事 岡田哲也)

荒木農園で自然の恩恵を楽しんでいます m() m
東日本大震災 311 以降、今日の天変地異に畏怖を感じる、が、人間の考える力も捨てたもんじゃない、お互いに頑張れるはず。ミャンマーの高僧の述べる言葉が頭の中に残っています。「あなたにできることをしなさい、よいことをしなさい」信者に、この言葉しか告げなかったということ。考えさせられます。その後「心の原点」という本の中で思いやりと感謝の気持ちをもって生活をしなさい…応援団(会員 野田俊市)

◆田中塾(次代を創る若者の育成):塾長 田中天元

1947年生まれ、大学時代に空手を始める。日航(JAL)国際線客室乗務員として世界 26 カ国 35 都市に滞在。乗務時間 2 万 6 千時間。松下幸之助、土光敏夫、田中角栄、田中清玄、大屋政子など著名な人と知り合う。56 歳で体調を崩し退職。病床の失意の底で初めて自分の傲慢さ、無知に気づき学び始める。臨済禅で「悟れない」ことを悟り、「宇宙・天地自然」を師とし、次代を創る若者達と学び合う私塾を自宅で開講。老母の介護をしながら講演もして日々充実した自由人。趣味:次代をになう子供達の能力開発(会員 田中元一)

◆”頑張れる”

東日本の復興に向けて頑張っている人達のインタビューを見て感じたこと。自分のためだけなら、中途半端に妥協したり諦めたり、先延ばししたり、手を抜いてしまう。人は誰かのためにしか真の意味で、頑張れない。「あの人の役に立ちたい」「あの方に喜んでいただきたい」「大切なあの人を守りたい」「生まれ育った故郷を蘇らせたい」こんな気持ちが確固たるものになれば、「もう少しやってみよう」「もっと良くしてみよう」「今日中にすぐにやろう」「徹底的にやってみよう」「辛抱強くやり続けよう」という気持ちになり元気、やる気、勇氣、知恵が湧いてくるし、周囲で頑張っている人達から力をもらえる。家や家族、仕事、財産の全てを失っても、ボランティア活動の人達と接して感謝と絆の存在も感じてくる。外国を見聞して来た私にとって日本人として生まれて良かったと改めて感じています。

◆”自分探し?”

この言葉を聞くと昔の流行歌の一節を思い出す。♪迷い道、ふらふら~♪ 自分は探さなくても、今ここにいるはずなのに。探すんじゃないくて、どんな自分なら気持ちいいか? どんな自分でありたいかという理想像が描けないのかもしれない。就職活動中の学生には、「先ず自己分析をしてみれば?」とアドバイスをする。次に「あるがままの自分を好きになることです!」「自分と握手したい人間になることです!」「客観的に自分ってどんな人間なのか?を直視することです!」2000年の昔から、ずっと「人間は迷える子羊」と言われてきたのですから・・・つまり、今の自分を大切にすること。

